

先進研究とネットワークで 膠原病に強い北陸に



金沢大学医薬保健研究域
医学系副医学系長・皮膚科学教授
金沢大学附属病院 皮膚科 科長
まつした たかし
松下 貴史氏

1999年 金沢大学医学部医学科卒業
2003年 金沢大学皮膚科 医員
2006年 金沢大学大学院医学研究科博士課程修了、
金沢大学皮膚科 助手

2007～2010年 Duke大学免疫学教室 研究員
2010年 金沢大学皮膚科 助教
2013年 金沢大学皮膚科 講師
2020年 金沢大学皮膚科 教授

膠原病は皮膚や関節など全身に炎症が起きる自己免疫疾患です。中でも皮膚症状が出る全身性強皮症と皮膚筋炎について研究する松下貴史教授は、病気の進行を食い止め、QOL(生活の質)を改善するよりよい診療のため、診断法・治療法の開発に邁進しています。

根治を見据えた「夢の治療」も
さまざまな療法の実現を目指す

自己免疫の異常によって、関節や皮膚、血管などの結合組織に炎症が起き、ときには内臓障害を引き起こすのが膠原病です。関節リウマチがよく知られますが、我々は皮膚症状が診断の契機になることが多い全身性強皮症と皮膚筋炎を専門としています。

全身性強皮症は指先の皮膚から硬くなり、やがて体幹に及び、時に

は肺や心臓まで硬くなって間質性肺炎などを発症させ、命に関わることもあります。国内の患者数は約3万人で、50～60代の女性が中心ですが、若年層や男性もいます。皮膚筋炎は皮膚と筋肉に炎症が起き、皮疹や筋力低下を招きます。いずれも痛みや体の動かしづらさで日常生活に支障をきたし、難病といわれています。

全身性強皮症について、我々はB細胞を標的とした新規療法につながる研究を行っています。本来自己抗体

保険適用になっていきます。ただ、除去率が大きく免疫機能の低下など副作用も強いため、我々は病原性を有するB細胞のみを除去する「選択的B細胞除去療法」の開発に取り組んでいます。また昨今、B細胞を完全に除去してリセットする治療法(CAR-T療法)が有効であることが分かり、実用化されれば根治も夢ではなくなります。重症度や副作用などを鑑みて患者さんに最適の治療ができるよう、研究を進めていきます。

院内外との密接な連携で
早期診断、早期治療につなげる

全身性強皮症ではQOLの維持と重症化を防ぐために早期に診断し、適切な治療につなげることが極めて重要です。我々は膠原病における自己抗体の解析に力を入れ、保険診療では調べられない抗体を研究室で測定し、早期診断の手助けをしています。また我々が明らかにした皮膚筋

炎の抗体については、その検査法が2016年に保険適用となりました。

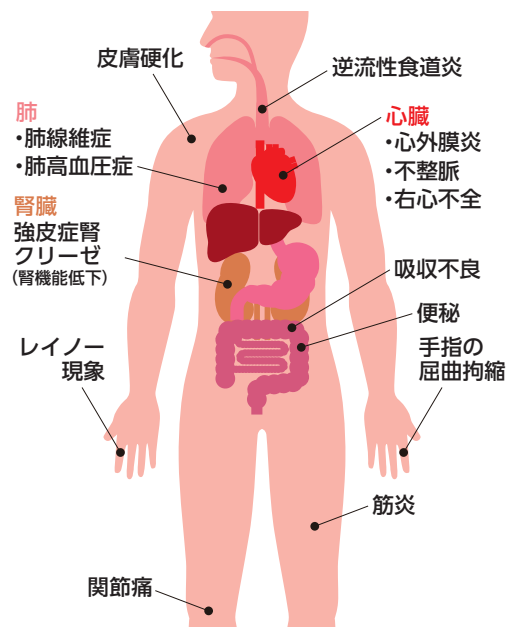
早期治療のためには北陸三県の関連施設のみならず、当研究室OBの

開業医や診療所の先生方との連携も欠かせません。全身性強皮症は、冷たいものに触れた際に指先が白くなる「レイノー現象」が初発症状として現れます。どこの診療科に行けばいいかわからず迷われる患者さんもいますが、北陸の皮膚科医はレイノー現象などの初期症状で全身性強皮症を診断でき、当院に紹介してくださるので、早い段階で治療を行うことができます。膠原病治療においてこのネットワークは大きな強みです。もちろん院内でも、腎臓・リウマチ膠原病内科をはじめ他の診療科とも密接に連携しています。

また、膠原病だけでなく、石川県アレルギー疾患医療拠点病院としてもさまざまな症例に対応しています。ことにアトピー性皮膚炎の治療は進化が目覚ましく、飲み薬や注射などの最新療法も取り入れており、劇的に改善される患者さんもいます。

患者さんの苦痛を少しでも和らげ、病気を忘れて生活できるようにサポートしたい。その使命感を胸に、北陸の皮膚疾患に悩む患者さんのため、診療と研究を続ける決意です。

全身性強皮症の主な症状



を産生するB細胞が、炎症を引き起こすサイトカインを産生して悪さをしている点を明らかにしました。このB細胞を除去する度合いによって4段階の治療法があり、1つは